

## 政策3

### 自然の力を生かし創るエコな自立型産業のまち

- 施策1 雇用創出と就労支援の充実
- 施策2 観光の振興
- 施策3 農業の振興
- 施策4 林業・漁業の振興
- 施策5 商工業の振興

## 施策1 雇用創出と就労支援の充実

### 施策のめざす方向

市民が希望する職業に就き安定して暮らしていくことができるよう、様々な業種の事業所の立地を促進するとともに、起業支援や人材育成に取り組むことで雇用の創出を図ります。また、異業種間の積極的な連携を促進することで、新規製品の創出を図ります。

### 経緯・現状

- ・国勢調査における名護市の完全失業率は、平成17年に12.5%であったものが平成22年には11.2%となっており、ここ近年の名護市の就業状況は改善していますが、沖縄県（平成22年：11.0%）と比較すると未だ高い状況です。
- ・名護市では、新たな雇用の確保に向けて、これまで、金融・情報通信産業等新規産業の誘致を行うとともに、各種就労支援講座の開催や教育機関との連携によるキャリア教育の推進に取り組む等、市民の就労支援に努めています。
- ・金融や情報通信業に対する理解・関心を高めるため、小中高校生を対象に金融・ITに関するキャリア教育を実施しています。
- ・沖縄県が中心となって若年層の就業意識の向上をめざし取り組んでいるグッジョブ運動の一環として、市内事業所の協力のもと、生徒・学生の職場体験を実施しています。
- ・退職後、これまで培ってきた経験を生かしながら、社会の役に立ちたいと考える市民が多く見られます。
- ・市内では6事業者が国から6次産業化計画の認定を受けており、認定団体には設備投資や販路拡大に対する支援を行っています。
- ・名護市産業支援センターを拠点にインキュベーションマネージャー<sup>\*1</sup>を配置し、起業・創業者へワンストップサービスによる支援を行い、新規産業の創出に向けて取り組んでいます。
- ・地域経済の活性化を図るため、中小企業・小規模企業振興基本条例の制定を行いました。

#### 【施策に関する市民の声】

- ・名護は生活するには良いが、市内での仕事が少ないため市外へ出ないといけない状況になっていると思う。
- ・正規で雇用がなされ安定して働く場所があり、若者が安心して生活できることによって、もっと若者で活気あふれるまちづくりができるのではないかなと思う。
- ・税金を払える（利益をあげている）企業が少ない。
- ・一次産品として特産品はあるが、それを加工、料理して提供できていない。
- ・農林水産省のフードアクションニッポンアワードに名護市から2年連続で受賞している。
- ・農水産品を活用したご当地メニューを作って、地産地消、6次産業化、食の観光に取り組んではどうか。



ジョブシャドウイング

### 課

### 題

- ・多様な対象における人材育成システムの充実
- ・企業のニーズに適合した人材の育成
- ・障がい者、高齢者等の就労支援の強化
- ・豊かな資源を生かした異業種間連携による新規産業の創出
- ・継続的な雇用対策の充実

## 具 体 的 な 取 組

### 1. 産業を創出するための人材育成

- 沖縄科学技術大学院大学との連携で国際的な学術研究都市の形成を目指します。
- 教育機関及び事業所と連携し、生徒及び事業所がともに有益となるキャリア教育の推進を図ります。また、多様な職種への職場体験が可能となるよう、受け入れ先となる事業所の開拓に取り組みます。
- 教育機関及び商工会等と連携し、各分野における人材育成体制の強化を図ります。
- 企業ニーズに適合した人材として育成可能な各種講座の充実を図ることで、地域住民の雇用創出に努めます。
- 民間事業所やハローワーク、その他関係機関との連携による様々な就労支援事業を推進し、障がい者や高齢者等を含めた市民の働く場の確保に努めます。

### 2. 産学官・産業間の連携強化

- 産学官の積極的な連携による新規製品の開発を推進します。
- 農商工連携をはじめ、産業間及び異業種間の積極的な連携体制を構築することで、新事業分野開拓や6次産業化の促進を図ります。

### 3. 金融・情報通信関連企業の立地促進

- 金融・情報通信国際都市形成計画（第3次基本計画）に基づく事業の推進を図ることで、金融及び情報通信関連企業の立地を促進します。
- 金融・情報特区については、対象となる業種の拡大が図られるなど、改正された新たな特区のもと該当する事業活動への支援を行います。

### 4. 新たな起業への支援

- 多様な機関と連携し、創業・起業者の支援に向けた取組を進めます。
- 新規産業の創出に向け、名護市産業支援センターを拠点とした取組をはじめ、多様な分野における起業を支援します。

### 5. 中小企業・小規模企業の振興

- 中小企業・小規模企業振興基本条例の制定に基づき、振興に関する施策の策定に向けた取組を進めます。

#### ◆重点的に取り組む活動

- 雇用の機会創出及び拡大
- 就学段階からのキャリア教育の推進
- 産学官・産業間の連携の強化
- 中小企業・小規模企業その他の関係機関との連携の強化

#### 【目標数値】

指標	平成 24 年度 (実績)	平成 30 年度 (目標値)
金融・情報通信関連雇用者数（累計）	1,005 人	2,500 人
新規創業者数	6 件	25 件

#### 用語解説

※1 インキュベーションマネージャー：インキュベーションとはビジネス・インキュベーションを簡略化したもので、孵(ふ)化器（インキュベータ）を使い鶏を育てるように、意図的に事業を創出・成長させることで、インキュベーションマネージャーとは、起業家やベンチャー企業等を、自立のめどがつくまで総合的に支援する専門家のことである。

## 施策2 観光の振興

### 施策のめざす方向

旅行形態及び観光ニーズの変化に応じた名護市の観光推進体制の強化を図るとともに、観光推進基盤となる観光資源を保全しながら、新たな魅力を創出することで、持続的な観光産業の発展をめざします。

### 経緯・現状

- ・平成24年度における名護市の観光客の入込状況は、観光施設入込客数が400万人、宿泊施設入込客数が110万人、イベント集客数が34万人で、宿泊施設の立地等、県内の入域観光客数の増加等に伴い、本市への入込状況も全体的に増加傾向にあります。
- ・近年は、観光施設入込客数や宿泊者数が増加傾向にあることから、これらの情勢を生かした観光関連産業の創出が期待されています。
- ・多くのイベントが開催されていますが、イベント集客数は低迷していることから、イベントの開催目的や実施方法等について見直しが求められています。
- ・観光形態が団体旅行から個人・グループ単位へと移行するなかで、行動・ニーズの多様化が見られ、その傾向に対応した地域資源の活用・創出と多様な情報の提供が求められています。
- ・文化財めぐり案内人の育成や名護市文化財散策マップの作成を行い、まちなか観光の推進に取り組んでいます。
- ・市内には、多様なスポーツ施設や宿泊施設、国際会議開催の実績がある万国津梁館が立地していることから、これらを活用した観光振興策が期待されています。

#### 【施策に関する市民の声】

- ・県内、県外の方々からみると、名護市は本部町等に行く際の通り道でしかないと感じている。もっと観光に力を入れたり、特産品を増やしてアピールできたら地域活性化につながると思う。
- ・地域資源を活用した観光振興を行うため、名護の市街地、食、海、山を楽しむツアープランの一般公募を行ってはどうか。
- ・ヒートウ、ヒージャーなど、Aランチに負けないご当地グルメをつくる。
- ・まちなかガイドやホエールウォッチング、タンカン狩りなどホテルを活用したオプションツアーを増やしてはどうか。
- ・豊年祭等の地域の伝統芸能を観光資源として活用する際には、地元の理解と協力が必要である。
- ・既存の祭りやイベントの開催目的などを見直し、市民参加型、観光客参加型など効果的な活用方法を考える必要がある。

### 課題

### 課題

- ・観光地としての名護市のPR不足
- ・素通り型観光
- ・旅行形態及びニーズの変化への対応
- ・豊富な観光資源の活用
- ・年間を通して多くのイベントが開催されている割に誘客力が弱い
- ・観光振興推進体制及び人材育成の強化
- ・MICE<sup>\*1</sup>への対応



多くの人で賑わう「名護さくら祭り」

## 具 体 的 な 取 組

### 1. 既存資源を活用した新たな観光魅力の創出

- 自然や歴史・文化、農林水産業など本市の魅力ある観光資源の発掘を行うとともに、これらを活用したまちなか観光の推進や観光メニューの開発、モニター調査の実施、市内宿泊施設を起点とした観光メニューの提供等、創造的な観光交流を促進します。
- 自然や地域の伝統芸能等の歴史・文化を観光資源として活用する際には、地域の理解と協力のもと、保全とのバランスに配慮した活用を図ります。
- 地域固有の食文化や地元の食材を活用したメニュー開発等により、「食」を活用した観光振興を図ります。
- スポーツ施設や宿泊施設、国際会議の開催実績のある万国津梁館等、市内に立地している施設の優位性を生かし、スポーツコンベンション(スポーツ大会、スポーツ合宿等)及び MICE の誘致に取り組みます。
- 本市で開催されている祭りやイベントの開催目的等を明確にした上で、改めてターゲットの設定を行う等、祭り・イベントの見直しや再整理を行い、イベントの効果的な活用を図ります。
- 「さくらのまち名護」を全国へ発信できるよう、さくら開花プロジェクトを市民と協働で推進していきます。

### 2. 観光プロモーションの推進

- 自然や歴史・文化など特色ある本市の観光資源を効果的に発信できるよう、マーケティング調査に基づいたプロモーション活動に取り組むとともに、多様な媒体を活用した情報の受発信に努めます。
- 日本国内はもとより、近年、増加傾向にある外国マーケットも視野に入れた観光客及び各種コンベンション等の誘致拡大に向けたプロモーション活動を展開します。

### 3. 観光推進体制の確立

- 行政、観光関連団体、観光関連事業者などの役割分担の明確化を図るとともに、効果的な観光施策の実施に向けた連携体制の構築に取り組みます。
- 観光関連情報を広範に集約し情報の一元化を図り、観光案内所や観光情報関連サイトなどを通して来訪者へ提供する体制を整えるとともに、観光情報の多言語化や内容の充実・強化を図ります。
- 市内宿泊施設を中心に観光客が必要としている市内観光情報の提供を行う等、情報発信の強化を図ります。

### 4. 観光基盤の整備

- 素通りしている観光客を漁港や中心市街地へ呼び込むため、交通インフラの充実及び名護漁港の利活用を推進します。

#### ◆重点的に取り組む活動

- 市民参加型、観光客参加型等、開催目的に応じた祭り・イベントの見直し
- 一次産業との連携による「食」を活用した観光の振興
- 効果的なプロモーション活動の推進

#### 【目標数値】

指標	平成 24 年度 (実績)	平成 30 年度 (目標値)
観光客の市内宿泊者数(延べ)	1,119 千人	1,170 千人
名護市の入域者数(施設利用者数(延べ人数))	3,988 千人	5,970 千人

#### 用語解説

※1 MICE:企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

## 施策3 農業の振興

### 施策のめざす方向

本市の各地域の生産環境を生かした農業の振興に向けて、生産基盤や営農条件の向上及び農業の担い手の確保・育成を図るとともに、時代のニーズに応じた農業の持つ多様な可能性を生かした活動を促進します。

### 経緯・現状

- ・名護市は、県内でも農業生産高が高く、多品目の農作物が栽培されており、農業が重要な産業の一つとなっています。特に、ゴーヤー、小菊、タンカン、シークワサー、ウコン、カボチャ、ドラセナ類（葉物）、平成25年度にアレカヤシが追加され、計8品目が、沖縄県の拠点産地に認定されています。また、畜産業についても、鶏卵やブロイラー、養豚などの生産量が県内でも多くなっています。
- ・他の産業と比較すると農業所得は低いことから、農業従事者の離農や高齢化が進んでおり、農業の担い手の確保・育成が課題となっています。
- ・市内には遊休農地が多く見られることから、名護市が農地利用集積円滑化団体を立ち上げ、農地の流動化に取り組むとともに、遊休農地を新規就農希望者や規模拡大希望農家への斡旋等を行い、再生事業などを導入し遊休農地の解消に向けて取り組んでいます。その他、離農予定者の農地についても同団体を活用し農地の斡旋等を行い、遊休農地発生を防ぐ手立てを行っています。
- ・ファーマーズマーケットでは、農家が生産した農畜産物の販売が周年通して行われています。
- ・市内農産物の学校給食及び地域の飲食店への供給体制の構築を目指した起業支援を行っています。また、リゾートホテル等への農産物の提供が行われています。

#### 【施策に関する市民の声】

- ・農業の振興こそ名護市発展の基礎になる。6次産業の育成を地域経済の振興の中心にしてはどうか。
- ・豚肉、牛肉、卵、ゴーヤー、キュウリなど美味しい農産物がある。
- ・学校給食で名護市産の農作物をもっと活用できないか。
- ・農家がもうかっていない。
- ・農業従事者の高齢化対策について、具体的な支援が見えない。
- ・耕作放棄地が多いため、活用できる農地がたくさんあるが、農地の流動化がなかなか進まない。
- ・農業の大規模化が進まない。
- ・畜産施設からの排水問題がある。
- ・第一次産業同士の連携が進まない。
- ・やんばる畑人プロジェクトが農林水産省の2012年フードアクションニッポンアワードを受賞した。

### 課

### 題

- ・農業経営の安定化
- ・市・名護市農業委員会・県・JA・農家等の関係機関・団体の連携
- ・農地流動化の仕組みづくり
- ・公害、環境面に配慮した基盤・施設整備の導入
- ・農畜産物のブランドづくりに向けた取組
- ・食の安全・安心に配慮した地産地消の推進
- ・安定的な農産物の供給による多様な市場への対応

### 1. 農業振興に向けた支援体制の強化

- 生産技術の高位平準化を図るために営農技術の指導・普及に努めるとともに、認定農業者制度※<sup>1</sup>の活用促進や花き・果樹等の換金性の高い耕種等との複合経営の導入促進等により、農家の収入の安定化を図ります。
- 農業規模拡大を希望する農業者等に対し、農地や遊休農地の貸付、再生作業に対する支援等を行うことで、農地流動化を促します。また、離農予定者や耕作放棄地を所有している農地所有者に対しては、農地の貸借に対する意識改革に取り組みます。
- 農業の担い手の確保・育成を図るため、名護市農業士会と連携し新規就農者等への営農支援制度の普及・活用を促します。
- 市・県・JA・農家等で構成される「名護市農業推進協議会」を中心に、農業の活性化及び持続的な発展並びに販路の確保と地産地消の促進に向けた対応策の協議を行います。
- 小規模農家間の連携促進に取り組み、収入の安定化を図ります。
- 新しい技術等を導入した次世代農業の取組を推進します。
- 農業経験を次世代に紡いでいく体験プログラムや講習会を実施します。
- 既存の組織の連携を促進し、機能強化を図ることで農業全般の支援に取り組みます。

### 2. 自然環境に配慮した農業生産基盤の整備

- 各種農業基盤整備（かんがい、排水路、農道等）、生産施設等については、受益者との十分な調整の上で、持続可能な生産活動が可能となる基盤整備、維持管理及び施設の導入・高度化を行うとともに、農産物被害防止対策を図ります。
- 赤土流出対策や防風・防潮林、小動物等に配慮した排水路、家畜排せつ物処理施設等の整備による自然環境に負荷を与えない営農環境の形成を図ります。
- 堆肥センターの機能高度化により、高品質の堆肥の提供を行うことで、環境に配慮した循環型農業の確立を進めます。

### 3. 農業の多様性を生かす活動の促進

- 地域の農産物を生かした多様な経済的波及効果を高めるため、拠点産地認定の農産物品目の拡大・PR 及び名護ブランドの創設を行うとともに、農産物加工販売拠点等の整備及び活用促進等、6次産業化の促進を図りつつ、マルシェ等を通じた地域の交流の場を創出します。
- ブランド力の強化を図ることで、新たな販路の確保・拡大に取り組みます。
- 学校給食への積極的利用を促進し、安全安心・おいしい名護市産の農作物への子どもたちの理解を図ります。
- 市外、県外、国外へ向けた農産物等の食の PR を行い、沖縄・アジアの台所構想に取り組みます。
- 農地を持たない市民に対し市民農園の提供を行うことで、農業に親しむ機会の提供を行います。

◆重点的に取り組む活動

- 農地利用集積円滑化団体と名護市農業委員会の連携による遊休農地の解消に向けた取組の強化
- 新規就農者への支援強化
- 拠点産地認定農産物品目の拡大・PR及び名護ブランドの創設による販路拡大
- 学校給食での活用等による地産地消の推進
- 一次産業間の連携強化

【目標数値】

指標	平成 24 年度 (実績)	平成 30 年度 (目標値)
認定農業者数 (累計)	124 人	160 人
土地改良区内における遊休農地の面積	113ha	90ha
拠点産地認定品目	7品目	10品目

用語解説

※1 認定農業者制度：意欲のある農業者が自らの夢を数字に表し、将来の姿をはっきりさせるための「農業経営改善計画書（5年後の目標）」を作成。その計画書を市町村が認定し、「農業経営のプロフェッショナル」を目指す認定農業者の計画達成に向けた取組を関係機関が重点的に支援するもの。



アグーの里宣言



羽地ターブックワー



シークワサーの樹園地



「ゴーヤーの里 中山」



喜瀬の稲作風景



うこん畑



伊差川の茶畑



タンカン（拠点産地品目）



かぼちゃ（拠点産地品目）



青切りシークワサー（拠点産地品目）



勝山シークワサー花香り祭



北部農林高等学校で戻し交配に成功したアグー

## 施策4 林業・漁業の振興

### 施策のめざす方向

林業については、既存の森林資源を保全・利活用し持続可能な森林資源循環型林業の構築をめざします。漁業については、海洋資源を守りながら進める漁業の振興を図るとともに、魚食の普及啓発及び多様な経営への取組による安定した漁業経営の確立をめざします。

### 経緯・現状

#### 【林業】

- ・名護市は、市土の大部分を森林が占めており、森林組合を中心に水源涵養林の植林、管理、松くい虫の駆除等、水や森を守るための活動が行われています。
- ・おが粉を原料とした菌床シイタケ栽培技術が発達したことから、近年はおが粉の需要が伸びています。

#### 【漁業】

- ・市内には6つの漁港があり、沿岸漁業を主とした漁業が行われています。
- ・海洋資源の回復を図るために、イカの産卵床やパヤオの設置、海底清掃及び稚魚の放流に取り組んでいます。また、羽地内海では、サンゴ礁の生態系に悪影響を及ぼしていると思われる海藻の除去活動を行っています。
- ・近年、漁場環境の悪化や魚価の低下等により、漁業経営は厳しい状況にあります。
- ・名護漁港に整備された水産物直販所では、魚食普及活動の一環としてマグロ解体ショーや試食会を実施しています。
- ・小中学生を対象とした定置網漁体験メニュー等の提供を行っています。

#### 【施策に関する市民の声】

##### 【林業】

- ・林道を活用してハイキング、軽登山、森林浴などのコースにすると良いと思う。

##### 【漁業】

- ・漁港のセリがかっこいい。
- ・漁港があり、水産資源も豊かである。
- ・名護漁港、仲尾次漁港、屋我地漁港、汀間漁港、辺野古漁港、許田漁港の6箇所の漁港がある。
- ・おいしい魚は那覇へ出荷される。
- ・おいしい魚料理を提供している飲食店が少ない。
- ・刺身と天ぷら以外の魚の食べ方を知らない。
- ・釣り船が少ない。
- ・ホエールウォッチングの拠点として漁港を活用できないか。
- ・漁港の土地を利用して地域の食材を市場のように販売するなど、一日中利用できるようにしてほしい。

### 課題

#### 【林業】

- ・既存林業生産基盤（林道等）の維持管理
- ・持続可能な森林資源循環型林業の構築

#### 【漁業】

- ・既存漁港の長寿命化
- ・資源管理型漁業の推進
- ・魚食の普及



名護漁港のセリ

## 具 体 的 な 取 組

### 1. 自然と調和した森林資源の保全

- 森林が有する多面的な機能を総合的かつ高度に発揮させるため、資源の循環利用林（生産森林）やダム周辺の水土保持林（水源涵養）等の適切な森林資源の保全・利活用による持続可能な森林資源循環型林業の構築を図ります。
- 持続可能な生産活動が可能となる基盤整備、維持管理及び施設の導入を進めるとともに、既存林道の災害復旧、維持管理を主とした林業生産基盤の保全に努めます。

### 2. 新たな林産物の研究・開発の促進

- 森林環境及び未発掘の森林資源を生かした食品、健康、装飾製品等の開発・研究を促進します。

### 3. 水産基盤の整備・保全

- 既存漁港の拡充・補修等の整備をはじめ、パヤオ・漁船・漁具等の購入・修繕等を促進するとともに、既存漁港の長寿命化及び改築を進めます。
- 禁漁期間の設定や栽培漁業の普及等による資源管理型漁業<sup>\*1</sup>の促進を図るとともに、漁業権の周知徹底や密猟防止対策を行います。

### 4. 漁家の経営の安定化及び担い手の育成

- 需給バランスを保つ流通体制の構築と遊漁船や体験漁業等を活用したレジャーとの連携を図ることで、漁家経営の安定化に取り組みます。また、水産物直販所等の活用及び魚食のメニュー開発の促進等により、消費の拡大に向けた多様な魚食の普及を促進します。
- 学校給食や地域の飲食店への供給の促進を図ることで、市内で水揚げされた水産物の地消を進めます。
- 小中学生を対象に漁業体験学習メニューの提供を行う等、担い手育成に取り組みます。

### 5. 名護漁港の利活用

- 多くの県民や観光客が通過する交通の要衝に位置する名護漁港については、中心市街地との連続性の創出や水産物直販所との相乗効果を図ることで、名護の玄関口としての潜在的可能性を生かした、地域の活性化に資する広域的な物産交流拠点の整備を進めます。

#### ◆重点的に取り組む活動

- 持続可能な森林資源循環型林業の構築
- 飲食店との連携や調理法の普及・開発等による消費拡大に向けた多様な魚食の普及促進
- 一次産業間の連携強化
- 地産地消の推進によるPR活動の強化

#### 【目標数値】

指標	平成 24 年度 (実績)	平成 30 年度 (目標値)
木質資源循環利用量	1,098 m <sup>3</sup>	2,000 m <sup>3</sup>
拠点漁港における水揚げ量	694 t	800 t
養殖漁業水揚げ量（ウニ・もずく）	12 t	63 t

#### 用語解説

※1 資源管理型漁業：自然界の仕組みを理解した上で、魚を減らさないように調整して漁獲する漁業をいう。

## 施策5 商工業の振興

### 施策のめざす方向

地域商業の再生に向け担い手の育成を行うとともに、地域と連携し沖縄本島北部の拠点として、にぎわいのある商業地の形成をめざします。また、地域資源を活用した特産品の開発への支援を行うとともに、名護市産品のPR強化による販路拡大に取り組みます。

### 経緯・現状

- ・名護市商工会を通して、市内の商工業者に対し各種融資制度の活用促進や経営診断等の支援を行っています。
- ・名護市産業支援センターでは、商工業者に対する各種講座等を実施しています。
- ・名護市における商業の状況は、既存市街地郊外では新たな商業施設の集積が進む一方で、中心市街地では空き店舗が目立ち、集客力が回復していない状況です。
- ・平成22年経済センサスによると、市内には製造業者が409事業所立地しており、うち119事業所が食料品製造業となっています。
- ・名護市では8品目の農産物が拠点産地に認定されており、これら名護市の特性を生かした地産品が多く見られます。
- ・各業種における組織率が低いことや組織力が弱い等の状況が見受けられ、同種業者同士の連携強化が求められています。
- ・製造業等については、工業の立地を目的とした工場適地が指定されていますが、事業所の誘致が進んでいない状況です。
- ・市営市場を活用した地元住民の主催イベントが数多く開催されています。

#### 【施策に関する市民の声】

- ・おいしい飲食店が多い。
- ・「ソーキそば」の発祥の地とされる名護そばなのに、隣町が先に“そばの町”宣言をした。
- ・地産品を活用したお店の出店を支援してはどうか。
- ・21世紀ビーチに有名コーヒー店を誘致してはどうか。
- ・若手芸術家への支援として、製作した作品等を販売できるブース等を設けてはどうか。
- ・中心市街地は高齢者等の買い物弱者の解消のため、介護医療施設や高齢者向けアパートを集積させ、高齢者向けのまちづくりをしてはどうか。
- ・中心市街地には駐車場が少ないので、“歩く”まちに転換してはどうか。
- ・規格外品の農産物を無駄にしないように、集荷場で加工品に回す機能をつくる。
- ・地域資源を生かした地産品づくりにもっと力を入れることで、基地移設候補地から、自然と食のまちとしてイメージを変えたい。また、足を運んでもらうだけでなく、お取り寄せできる食べ物を開発してはどうか。

### 課題

- ・中小企業者・小規模企業者等のニーズに応じた各種支援等の充実
- ・中心市街地の活性化に向けた住民と行政の連携の強化
- ・地域商業の再生と担い手支援
- ・商業地のにぎわいをつくる企画、仕掛け等の強化
- ・地域資源を活用した地産品の開発と販路拡大
- ・各種活動団体の組織力の強化
- ・工場適地への製造業等の誘致



名護大通りトランジットモール

## 具体的な取組

### 1. 中小企業・小規模企業等への支援・育成の充実

- 商工会と連携し中小企業者・小規模企業者に関する多様な補助、助成等の活用を促進します。
- 中小企業者・小規模企業者等の共通課題の抽出・把握を行う等、ニーズに適合した各種講座内容の充実を促進します。
- 地元企業の受注機会の増大を図るため、公共事業の地元優先発注と分離分割発注に努めます。

### 2. 中心市街地への商業の集積・活性化と機能の拡充

- 名護市営市場を核に既存商業の再生やチャレンジショップ等の展開による新規商業者の育成を図ることで、中小小売業の集積と利便性の向上を促進します。
- 関係地権者や地域商業者の主体的な取組を支援するとともに、利便性を高める都市施設・利便施設（広場・駐車場等）の整備を図ります。
- 中心市街地におけるにぎわいづくりとして、観光資源等を生かしつつ、車両制限による歩行者優先の道路空間の活用や直売、フリーマーケット等のイベントの開催を促進します。

### 3. 地域資源を活用した地産品開発と販路拡大

- ものづくりに関わる事業者が抱える悩みに適切な対応を行うため、商工会と連携し、インキュベーションマネージャーを活用した経営面だけでなく市場のニーズに対応する支援を行います。
- 地産品については、食品表示等、製品に対する信頼性を高める取組の促進を図るとともに、市が認定を行う推奨品のルールづくりに取り組みます。
- 地域資源を活用した新規製品の開発及び商品化を促すとともに、名護市地産品による地域ブランドの創設を図ります。
- 観光産業との連携や関係機関との更なる連携強化による市外でのプロモーション活動の展開等、名護市地産品のPR強化による販路拡大に取り組みます。

### 4. 商工会の強化及び各種活動団体の活性化

- 商工会や通り会をはじめとした各種活動団体の組織力の強化や組織活動の活性化に向けた取組を支援します。

### 5. 製造業等の新たな展開

- 工場適地における立地環境の条件整備及び整備手法の構築を図るとともに、環境・エネルギー、ものづくり関連産業等、名護市の雇用創出に寄与する企業の立地誘導を図ります。

#### ◆重点的に取り組む活動

- 名護市地産品のブランド化の構築
- 地域資源を活用した地産品開発と販路拡大
- 商工会との連携強化、インキュベーションマネージャーを活用した経営面だけでなく市場のニーズに対応する支援

#### 【目標数値】

指標	平成24年度 (実績)	平成30年度 (目標値)
商工会関連各種講座数	15 講座	20 講座
中心市街地における空き店舗数	31 店舗	25 店舗



笑顔わんさか子ども祭り